

三の一人けん

神河町立神崎小学校三年（当時学年）

藤本 結愛

わたしは、先生の話を聞いて、人けんについて考えてみました。すると、クラスのことを頭にうかんできました。わたしのいる三の一には、いろんなところに人けんがあるなと思いました。その中でとくにいいなと思うことが、三つあります。

一つ目は、かかりのことです。

三の一には、かかりがたくさんあります。こん虫やサインや遊び、ぬり絵やイラスト、歌や漢字や価値語など、全部で十一こあります。みんなが、自分の好きなことやとく意なこと、みんなを乐しませています。その人によって好きなことやとく意なことがちがって、おもしろいです。みんなのこせいがあふれているかかりは、三の一人けんだなと思いました。

二つ目は、じゅぎょうのことです。

じゅぎょうでは、たくさん学び合いをします。一人で考えてもむずかしい人がいれば、たすけ合っています。そのおかげで、とく意な人も自分の力をもっとのばせるので、わたしのクラスでは学び合いとよんでいます。

ほかに、みんなでたくさん考えを出して、ちがいを見つけて話し合います。とても勉強になります。こんなじゅぎょうが、毎日です。一人も見すてずに、毎日おたがいに学び合おう

ころが、三の一人けんだと思いました。

三つ目は、価値語です。

価値語というのは、みんなを成長させたり、よろこばせたりする言葉です。三の一のみんなは、さい近生活で価値語を使うようになりました。

朝、学校来ると、いろんな人が黒板に言葉を書いてくれています。「今日も全力でがんばりましょう。」「みんなではめ合いました。」「自分にきびしく人にやさしく。」など、みんなのことを心から思っていて書いてくれて、元気が出ます。

帰る前のほめ言葉タイムの時にも、いろいろな言葉を使ってほめ合っています。わたしは、「人を大事にしていますね。」「目でも話を聞けていますね。」「出す声が成長していますね。」「言われたことがあります。自分が、よそうしていなかったことをほめてもらえて、本当にうれいです。」

価値語を使うということは、言葉を大切にしていることと同じです。言葉を大切にすると、目の前の人を大切にできるとわたしは思います。これも、三の一人けんだと思いました。

こんなふうには、三の一には、人けんがあります。もっと三の一人けんをふやして、ひとりひとりを大切にしたいです。



【二〇二三年度第十八号

神河町人権文集「かみかわの子」より】

「人権尊重のまち」宣言

豊かな自然の中で、誰もが生き生きと暮らせるまち神河町。一人ひとりが大切にされ、地域ぐるみで見守り支えあい、ハートがふれあうまち神河町。私たち神河町民は、すべての人権を大切にしていこうという熱い願いを先人から受け継いできています。

しかし、今なお、現実の社会生活においては、同和問題をはじめ、さまざまな人権課題（女性、子ども、高齢者、障がいのある人、外国人、インターネットの悪用、その他新しい課題）が存在しています。

これらの課題を解決するために、まずそれぞれの課題について正しく理解するとともに、私たち町民一人ひとりが自らの人権意識を高め、お互いを認め、尊重しあえる豊かな人間関係を築いていかなければなりません。

私たちは、日本国憲法及び世界人権宣言のもとに、すべての人々の人権を守り明るく住みよい共生社会の実現をめざし、ここに神河町を「人権尊重のまち」とすることを宣言し、次のことを実践していきます。

○自分の命、そしてすべての人の命を大切にします。

○ふるさとや家族を愛し、相手のことを考えて行動します。

○部落差別をはじめ、あらゆる人権にかかわる差別の解消に向け不断の努力をします。

平成20年3月

神河町